論文または報告と記載

1字あける

MS ゴシック，14pt，　文字数は 55 字以内

上辺のマージン 25mm

論文○日本コンクリート工学年次大会 2016 博多大会の和文原稿における特○○○に注意する点

2 行目は，4 文字目から書き始める

左右のマージン 22mm

南谷　伝蔵*1・乗鞍　英暦*2・鞍乗　暦英*3

中黒点「・」で区切る

2 字あける

2 字あける

「見出し」のみゴシックとする

要旨：論文を作成する上で，特に注意していただきたいレイアウトやフォントについて記述しています。句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用すること。要旨は 4～6 行，キーワードは 1 行以内とし，「**要旨**：」，「**キーワード**：」の見出しは，MS ゴシックを使用すること。図・表・写真のタイトルならびに本文中に引用する場合のフォントは，MS ゴシック（和文の場合），Times New Roman の太字（英文の場合）を使用すること。参考文献のフォントの大きさは，本文と同じ 9 ポイントを使用すること。なお，詳細については，執筆要領をご参照ください。

キーワード：定着鉄筋，載荷速度，ひび割れ

要旨は、4 行以上 6 行以内とする

本文の句読点は，カンマ「,」と句点「。」を使用

特に注意する

章・節・項の「見出し」はゴシックとする

1. はじめに

原稿は，A4 サイズ横書き 25 字×47 行×2 段組，余白は上 25mm，下 20mm，左 22mm，右 22mm に指定して作成する。フォントの大きさは 9 ポイント，色は黒字，句読点はカンマ「,」と句点「。」と使用すること。

各章の上段は 1 行あける

2. 原稿の書式について

2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

(1) 論文・報告の種別と題目

論文・報告の種別を第 1 ページ 1 行目に左寄せで記入し，その後 1 文字あけて題目を記載する。題目が 1 行に収まらない場合は，2 行目の左から 4 文字目から続きを書き始めること。

(2) 要旨およびキーワード

要旨とキーワードは 1 段組みとし，見出しの「**要旨**：」，「**キーワード**：」のみ MS ゴシックで記載する。このとき，左右両端を 2 文字ずつあける。

2.2 章・節・項の見出しについて

各章の見出しの上側は，1 行あける。章・節の見出しは左端から，項の見出しは 1 文字あけてから書き出す。「章・節・項」の見出しのフォントは，MS ゴシックとし，大きさは 9 ポイントとすること。

各章の上段は 1 行あける

3. 数式・単位・図表について

各節・項の上段は詰める

3.1 数式

極力簡潔にまとめ，式は 3 文字空けてから書き始める。式番号は(1), (2), (3)とし，式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は，式(1)，式(2) とする。表記例を以下の式(1)に示す。

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \qquad (1)$$

3.2 図・表・写真について

(1) フォント

図･表･写真に使用する文字のフォントの種類，色（黒），および大きさ（7 ポイント以上とするが，本文と同一の 9 ポイントが望ましい）については，執筆要領を参照すること。

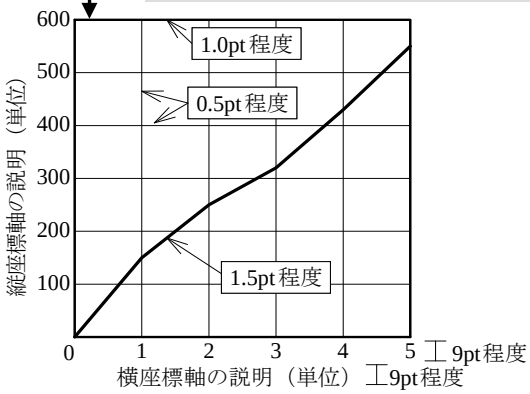
(2)タイトル

図・表・写真のタイトルおよび文章中に引用する場合のフォントは，和文で明記する場合は数字も含めて MS ゴシック（**図－1**）とし，英文で明記する場合は Times New Roman 太文字（**Fig.1**）で統一すること。

(3) 配置

図・表・写真は，本文に近いところに配置し，ページ

図・表・写真と本文の間は，1 行以上あける



図－1　図の良い例と作図参考寸法

書式は 2 段組・25 字・47 行，フォントの大きさは 9pt とする

*1 城北大学　工学部土木工学科准教授　工博　(正会員)
*2 城北大学　工学部土木工学科　(学生会員)
*3 南北コンサルタント（株）　第一設計部

実線を引く

和文タイトルは MS ゴシック，英文タイトルは Times New Roman の太字

下辺のマージン 20mm

表のタイトルは表の上に，
図・写真のタイトルは下に記載する

和文タイトルはゴMS シック，
英文タイトルはTimes New Roman の太文字に

表－1　表の作成例

組骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量 (kg/m^3)				
					水 *W*	セメント *C*	細骨材 *S*	粗骨材 *G*	混和剤 *A*
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

図・表・写真と本文との間は，1 行以上あける

幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。また，参考文献の後（文末）には配置しないこと。

なお，本文と区別できるように，番号・タイトルを含む領域の上下を本文から 1 行以上あけること。

章・節・項の「見出し」は MS ゴシックにする

4. 参考文献について

4.1 参考文献

参考文献は，投稿時に既発表のものに限る。また，参考文献に記載した文献は，本文で必ず引用すること。

参考文献の見出しは，「**結論**」あるいは「**まとめ**」の後に **MS ゴシック**の**参考文献**と明記し，フォントの大きさは 9 ポイントとすること。

参考とした文献名のフォントは，MS 明朝，Times New Roman とし，大きさは 9 ポイントとする。また，使用順に 1)，2) のように番号をふり，まとめて掲げること。

文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に，上付数字で [1),2),3)]・・・のように明記しておくこと。

参考文献は文末に記載し，左・右の段を揃えて書き終えるように原稿を作成すること。

4.2 記載方法

(1) 論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

(2) 単行本の場合

著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月の順とする。

(3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。著者が 5 名以上の場合には，筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマの後にイニシャルで示す。著者が 4 名以上の場合は，筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

(4) 発行年月

和文文献の場合，西暦に統一して，1988.11，1991.2 のように記す。欧文文献では，Nov.1988，Feb.1991 のように記す。

「見出し」のみ MS ゴシック，大きさは 9pt

参考文献（記載例）

1) 小林一輔，魚本健人，嶋　文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17，No.5，pp.87-95，1979.5

2) 大津政康，鎌田敏郎，山田和夫，永山　勝：コンクリート構造物の診断のための非破壊試験方法研究委員会報告，コンクリート工学年次論文集，Vol.23，No.1, pp.35-40, 2001.6

3) 岡田　清，六車　熙編：コンクリート・ハンドブック，朝倉書店，1981

4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12,pp.28-31, Dec.1986

5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non- Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980

参考とした文献名のフォントは，MS 明朝・Times New Roman，大きさは，9pt とする

・本文の文末は，左・右の段を出来る限り揃えて書き終える

・参考文献の後に，図・表・写真等を配置しない

・本文の長さは，5 ページ目の両段 30 行以上，6 ページ以内とする